

新宿区

UD

まちづくり  
ニュースレター

Vol.

19

WINTER

第19号  
2025.12

UDスポット  
公益財団法人  
神経研究所・附属晴和病院

こうえきざいだんほうじん  
しんけいけんきゅうじょ・ふぞくせいわびょういん

公益財団法人 神経研究所附属 晴和病院  
SEIWA HOSPITAL 晴和病院

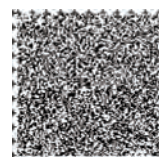
ユニバーサルデザイン

UD  
とは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、  
できるだけ多くの人々が利用できるような生活環境その  
他の環境をつくり上げていく考え方です。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々  
が生活しています。区では、移動しやすく、利用  
しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2  
年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、UDスポットの紹介  
や新宿区の実践などをお伝えしていきます。



Uni-Voice

1951年に開業した公益財団法人神経研究所・附属晴和病院は、2025年4月に新しく生まれ変わりました。

精神科は閉鎖的なイメージを持たれがちですが、都心にある晴和病院では、患者さんやご家族が社会から孤立することなく、日常に近い生活を送れるよう、様々な工夫が施されています。

ここでは、人々の特性に寄り添いながらも、誰もが「普通に」利用できるように整備されたポイントをご紹介します。

～お話を伺った方々～



公益財団法人  
神経研究所  
企画室長  
南部谷さん



株式会社  
岡田新一設計事務所  
取締役 副社長  
尾崎さん



株式会社  
岡田新一設計事務所  
羽鳥さん

Good  
UD  
ポイント

### 心地よく過ごせる建物内のデザイン

患者さんの中には五感が敏感な方も多いため、全体的に落ち着いたデザイン・色使いや照明計画になっています。

過度な配慮は控えつつ、フラットな床や手すりなど、誰もが使いやすい機能が備わっています。



木目調で統一された  
温かい雰囲気の中核。



病棟のバスルーム。  
洗い場までフラットに  
アクセスできる。

### 運営者コメント

「治す医療」を担う病院部分では、患者さんが一般の人と変わらず「普通に過ごせる環境」づくりを大切にしています。患者さんの特性を考えつつ、過度な配慮はしないことも、一種のユニバーサルデザインなのではないかと考えています。  
(南部谷さん)

Good  
UD  
ポイント

### 特性に寄り添う理解しやすいサインの設置

建物内のサインは、様々な特性を持った人が利用することを考えて設計されています。

また、患者さんも空間づくりに参加できるような工夫もされています。



病室入口に設置された  
アクリルケース。  
表示する内容を  
手軽に変更できる。

### 設計者コメント

普通に過ごせる環境を心掛ける一方で、五感が敏感な方が多いことから、色や音には気を遣っています。

サインは刺激の少ない色に統一するほか、診察の呼び出しは音声ではなくモニター表示とし、音による刺激を軽減しています。(尾崎さん・羽鳥さん)

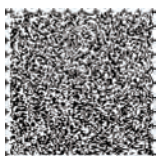
音に敏感な人に配慮し、  
モニター表示による  
診察の呼び出しを  
行っている。

折り鶴は患者さんが色を考えて作成！



トイレ入口のサイン。

日本語・英語・ピクトグラムの3種類で示されている。



Uni-Voice

Good さ  
UD  
ポイント

## 誰もがリラックスできる「だんだんテラス」

日影規制による建物の形を活かし、各階にテラスが設けられています。使い方を試行錯誤しながら少しずつ形にしていくという思いを込めて、「だんだんテラス」と名づけられ、リラックスできたり作物の栽培をしたりと階ごとに様々な用途で活用されています。

### 運営者コメント

1階のテラスは待合にいる方々が気分転換できるスペースです。また、4階のだんだんテラスでは入院患者さん、デイケアや晴(Halu)のメンバーさんや作業療法のプログラムの一環として、みんなでコマや野菜栽培を行い、収穫イベントなども開催しています。(南部谷さん)

1階のテラス。  
テーブルと椅子があり  
のんびりと  
過ごすことができる。

患者さんと一緒に  
テラスで育てられた稲の  
脱穀と籾摺りを行いました！



写真提供：公益財団法人 神経研究所

Good さ  
UD  
ポイント

## 多様な特性を持ちながら、日常を送れる環境

生活訓練施設や地域活動支援センター、有料障害者ホームなど、スムーズに社会に復帰できるよう支援するための様々な機能が備わっています。医療だけでなく、日常生活や就労のサポートまで一体的に行うことで、患者さんとその家族が安心して地域で暮らし続けることができます。

### 弁天町ハウス

障害者のための居住空間。  
家族と住むこともでき、  
入院と在宅の中間の新たな  
選択肢となっている。

### 地域活動支援センター 晴 (Halu)

区内に住所を有する  
発達・精神障害者の居場  
所として、生活支援の  
サービスを提供。

### 運営者コメント

「支える医療」として、生活支援センターがあります。地域活動支援センター晴(Halu)、附設生活支援センター和(Nico)をはじめとした複合的な機能を備え、治療中から社会復帰、さらに復帰後までを一貫して支える体制を整えています。将来的に患者数が減少する見込みを踏まえ、病床として使用しているスペースも、将来は支援機能に転用できるように設計されています。(南部谷さん)

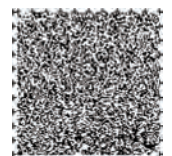
### 附設生活支援センター 和 (Nico)

生活訓練施設として支援  
を行っている。生活が一  
人で完結しないよう、個  
室内の設備は最低限。

## 運営者インタビュー

晴和病院は、創設者・内村祐之の「患者だけでなく、その家族の生活にも配慮した病院をつくりたい」という想いを基に、1951年に弁天町で開業しました。「地域に開かれ、患者が社会とつながることができる場所」という理念を受け継いだ新病院には、「治す機能」と「支える機能」が備わっており、これらを組み合わせた「治し支える医療」により、患者さんの社会参加や社会復帰を切れ目なく支援しています。

精神科を受診される方は「精神病患者」とひと括りにされがちですが、症状は様々で、多くの方は一般の人と大きく変わらない生活を送ることができます。晴和病院では、「発達障害は病気ではなく個性である」という「ニューロダイバーシティ」の考え方を重視しており、今後も、多様な特性を持つ人々が自分らしさを活かして「普通に」社会で暮らしていけるよう、支援を続けていきます。(南部谷さん)



Uni-Voice



## すべての子どもに遊びの場を —Play for ALL の実現へ—



日本大学工学部  
まちづくり工学科 助教  
(一級建築士・福祉環境  
コーディネーター 1級)  
新宿区ユニバーサルデザイン  
まちづくり相談員  
植田瑞昌さん

すべての子どもには、生きる・育つ・参加する・守られる権利があります。これは国連の「子どもの権利条約」で示された4本の柱です。しかし、重い障害のある子どもは「参加する権利」を十分に保障されていない場面が少なくありません。その要因のひとつが、物理的な環境による制約です。そこで、障害の有無によらず、すべての子どもが共に遊び、学び、成長できる環境をつくるのが求められています。海外では古くから「Play for ALL」という考え方もと公園整備が進められてきました。たとえば、私が訪れたアメリカ・カリフォルニア州の公園には、姿勢保持が難しい子どもも利用できるブランコ（写真1）や、車椅子を利用してそのまま上がる遊具が数多く設置されています。さらに、視覚障害のある子どもが音で楽しめる仕掛けや、聴覚障害のある子どもが音を振動で感じられる遊具（写真2）や凸凹の絵や文字を通してコミュニケーションができる空間（写真3）もあり、すべての子どもが楽しめる工夫が随所に見られました。

一方で、重度の障害のある子どもの遊び環境を考えると、忘れてはならないのが「休む」空間です。強い日差しを避けられる庇や木陰、家族で安心して食事ができるスペース、車椅子対応トイレや大型ベッドを備えた設備など、滞在全体を支える環境があつてこそ、子どもも保護者も心から遊びを楽しむことができます。

すべての子どもが遊びを通して喜びやつながりを感じられる——そんな当たり前の風景が広がることを願っています。



写真1  
姿勢保持機能のついたブランコ



写真2  
音で楽しめる空間



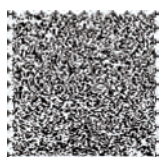
写真3  
コミュニケーションボード

新宿区からのお知らせ

## 新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例施行規則を改正しました ～令和8年1月1日から施行します～

東京都福祉のまちづくり条例施行規則の改正に伴い、新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例施行規則を改正し、令和7年12月1日に公布しました。当改正により、「便所」「観覧席・客席」「駐車場」の整備基準を変更しています。詳しくは下記2次元バーコードより新宿区ホームページをご覧ください。

新宿区ホームページ  
「新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例と届出について」  
はこちら→



Uni-Voice

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第19号 (令和7年12月発行)

取材・編集：(株) 梵まちづくり研究所

お問い合わせ先：新宿区景観・まちづくり課 電話：03-5273-3843 FAX：03-3209-9227